

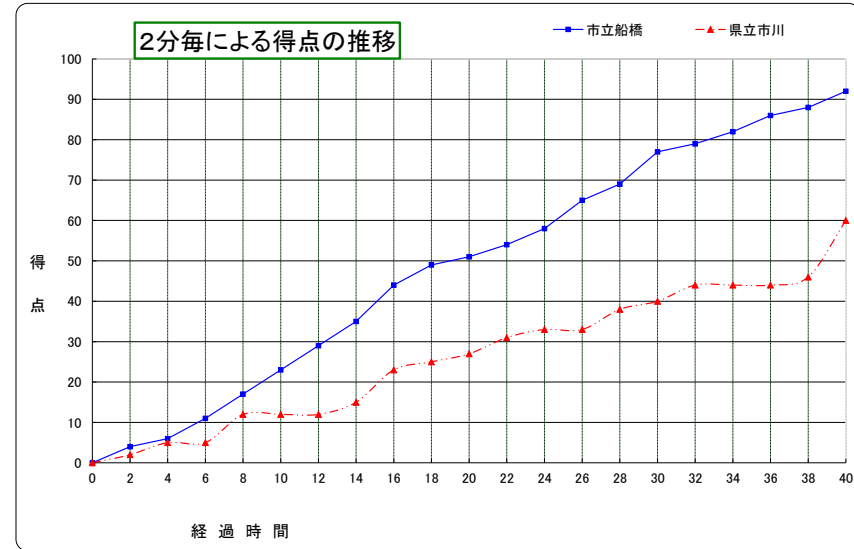
# 平成28年度第27回関東高等学校 バスケットボール新人大会

平成29年2月11日(土)  
春日部ウイングハット  
1回戦

チームA			チームB
市立船橋 (千葉)	92	{ 23 1st 12 28 2nd 15 26 3rd 13 15 4th 20 }	60 県立市川 (山梨)

番号	氏名	得点	3P		2P		FT		反則	リバウンド		スチール	アシスト	ブロックショット	ターンオーバー	
			成功	試行	成功	試行	成功	試行		OF	DF					
4	保泉 遼	26	6	10	4	8	0	0	2	4	4	1	3	1	4	
5	庄司 理宇	12	0	0	5	6	2	5	3	5	2	4	1	0	0	
6	葉丸 侑平	10	2	3	2	4	0	1	1	0	1	1	4	0	3	
7	野崎 由之	14	2	6	4	5	0	0	2	2	5	1	6	0	3	
8	後藤 恵梧	0	0	0	0	1	0	0	2	0	4	0	2	0	2	
9	星野 怜	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
10	佐々木賢太	0	0	0	0	3	0	0	0	0	1	0	0	0	0	
11	長根 泰斗	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
12	衛藤 崇	6	0	0	3	3	0	0	0	1	1	0	0	0	2	
13	市場 暹樹	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
14	兼重バトリック	8	0	1	2	6	4	6	2	4	8	3	0	0	2	
15	三上 颯斗	2	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	
16	富田 将希	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	1	1	0	1	
17	碓水 真吾	4	0	1	2	2	0	0	2	1	0	1	0	0	0	
18	大澤 響生	10	2	2	2	2	0	0	1	0	3	1	1	0	3	
コーチ	近藤 義行	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	3	
		92	12	25	25	42	6	12	17	18	30	15	19	1	25	
		確率	48.0%		59.5%		50.0%			計 48						

番号	氏名	得点	3P		2P		FT		反則	リバウンド		スチール	アシスト	ブロックショット	ターンオーバー	
			成功	試行	成功	試行	成功	試行		OF	DF					
4	中澤 海斗	29	3	5	7	10	6	8	1	3	4	5	3	1	2	
5	野村 拓矢	2	0	2	1	4	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
6	星野 隼人	12	0	1	6	16	0	0	5	0	3	3	1	1	10	
7	矢崎 正広	2	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
8	日原 翔夢	2	0	1	0	2	2	2	1	0	0	4	2	0	2	
9	今村 統希	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
10	鈴木 詩琉	0	0	0	0	2	0	0	3	0	0	0	1	0	0	
11	高山 歳也	2	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	
12	横瀬 秋羽															
13	佐野 楓															
14	宮下 雅也	3	1	1	0	1	0	0	0	0	1	2	0	0	2	
15	名取 楽	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	
16	太田 大稀	6	2	6	0	1	0	0	2	2	1	0	1	0	5	
17	太田 悠稀	2	0	1	0	5	2	2	3	1	0	1	2	0	1	
18	飯嶋 華王	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
コーチ	吉 川 仁	0	0	0	0	0	0	0	0	3	2	0	1	0	1	
		60	6	17	15	42	12	14	16	9	11	15	11	2	25	
		確率	35.3%		35.7%		85.7%			計 20						



**戦評**

第1P、市立船橋・県立市川ともにオールコートマンツーマンでゲーム開始。硬さのみられる市立船橋の隙を見逃さない県立市川は、スチールからの得点で幸先の良いスタートを切る。対する市立船橋は厳しいディフェンスとオフェンスリバウンドを徹底しリズムを掴む。オフェンスも#4を中心に展開し、ピックプレーから3Pを次々と沈め23対12で終了する。

第2P、得点を縮めたい県立市川は1-2-2ゾーンプレスに変更。しかし、対する市立船橋全く動じず、逆に#4、7の3Pで一気に走り出す。対する県立市川は、#6のハイポスト、ドライブインからの合わせで見出そうとするが、市立船橋の厳しいディフェンスに思うようなプレーをさせてもらえない。終始、市立船橋のペースで展開され51対27で終了する。

第3P、県立市川は機能しなかったディフェンスをオールコートマンツーマンに戻す。これが功を奏し、点差から緩みもみられる市立船橋の運動量が落ちたところにミス誘発する。流れを変えたい市立船橋は、メンバーを入れ替えリズムを変える。チェンジディレクションからドライブインを徹底し、レイアップ、合わせの3Pなど止まらない。その流れのまま、77対40で終了する。

第4P、両者ディフェンスに変更なし。市立船橋の流れは変わらず、ベンチメンバーを全員使う余裕を見せる。県立市川は終始攻めあぐみ、市立船橋のスピードとパワーに対応できない。小さいながら、最後まで自分たちのバスケットボールを徹底し続けた市立船橋が県立市川を圧倒し、92対60で勝利した。

記入者: 白井 崇義

Ref	長谷川 裕	1st U	小泉 登	2nd U	
-----	-------	-------	------	-------	--